

FUKUSHIMA

いのちの最前線

東日本大震災の活動記録集

公立大学法人 福島県立医科大学



FUKUSHIMA

いのちの最前線

東日本大震災の活動記録集

公立大学法人 福島県立医科大学

すべてのことを記録する

すべてのことを記録する。

起きたこと、行ったことを解釈を入れずに正確に記録する。

それを次の世代に伝える。

そこから失敗も、成功も、評価されるからである。



震災後一年、 福島からのメッセージ

あれから一年、東日本大震災による死者・行方不明者は2万人を超え、震災関連で死亡された人も1千人以上にのぼっています。福島県は原発事故により、1万6千人余りが、いまだに避難を余儀なくされ、そして、5万人以上が県外に転出しています。さらに、避難にともなって特別養護施設の高齢者の死亡が例年の2倍になっており、30キロ圏内の施設入所者の死亡が前年同期の3倍に達しています。自殺者も急増しています。不眠症や高齢者の患者も増加しています。

原発事故避難地域は医療崩壊です。約150人の本学教員枠増による“福島方式”で地域医療の崩壊を回避してきましたが、今、医師の流出が相次ぎ、崩壊の危機に瀕しています。原発事故による惨禍は、真に修羅の場です。

未曾有の大災害に、現場（自衛隊、警察、消防、行政、そして医療従事者など）の働きぶりは“見事”の一言でした。ただ、得られた教訓も多々あります。まず、複合災害に対する体制整備が不備であることが露呈しました。第2に、“放射線”に対する国民・医療人の教育不足が明らかになりました。第3に、指揮命令系統が大混乱をきたしました。リーダーシップを発揮すると波風が立ちますが、それを回避する傾向が、今回は仇になりました。第4に、有事即応の組織に人的余裕のなかったことです。第5に、「安心」と「安全」の峻別ができておらず、混乱をきたしました。「安心」は心とコストの問題です。「安全」は科学の問題です。100%安全が保障されている安心な世界は存在しないという当たり前のことが、認識されていませんでした。

最後に、情報共有化での混乱がありました。

次世代への教訓は、まず、災害に強い病院を再構築する必要があります。全国民がそのコストを分かち合うべきです。第2に、リーダーのあるべき姿とは何かを国民が立ち止まって考える時です。科学的合理性を越えた時の対応には、ぶれずに、踏み止まり、そして立ち続けることが求められます。トップには、部下や関係者への明確なメッセージが求められます。第3に、支援する側への支援体制の整備を急ぐ必要があります。第4に、有事での情報発信の在り方や国民の連帯の在り様を見直す必要があります。最後に、支援する側への感謝の気持ちを伝達することが重要です。これにより支援する側は頑張れます。

地域や現場に悪い影響を及ぼしたのは、匿名での誹謗、中傷でした。特に、被災^{むご}していても支援する側に居る人達への、被災者の非難は惨過ぎます。有事では、匿名での言動は無責任で、卑怯です。有事では、各人が一生背負っていく覚悟での言動が求められます。

誰もが経験のない原発事故との^{たたか}闘いは、今始まったばかりです。本学に課せられた歴史的使命を、我々はこれから世代を継いで、担っていかねばなりません。それが県民、国民、そして人類に対する本学の果たすべき役割であるとの認識を前にして、我々はその遂行の大切さと困難さを覚悟しております。

最後に、この一年間、国内外での有形無形の御支援に本学を代表して御礼申し上げます。

福島県立医科大学理事長兼学長
菊地 臣一

震災後一年、福島からのメッセージ	福島県立医科大学 理事長兼学長 菊地 臣一	2
------------------	-----------------------	---

第1章 戦場と化した福島医大
 —震災直後の被災者と、避難患者の治療、救済現場の姿を集めた。国内外からの支援や福島医大震災特設ページで速報された案内、学内対応の書面など、あの時の思いを共有できる素材も掲載した。

原爆被災地からの緊急被ばく医療初期支援の動き	福島県立医科大学 副学長 山下 俊一	41
大地震発生当日	福島県立医科大学附属病院副院長 大森 孝一	44
大地震から2週間	福島県立医科大学附属病院副院長 大森 孝一	56
2週間～4週間	福島県立医科大学附属病院副院長 大森 孝一	64
ここが私の家	福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座 准教授 ノレット・ケネス	71

第2章 福島医大関係者 行動記録(手記とメッセージ)
 —大災害に直面し、福島医大はこの危機を克服するため大学全体が一丸となった。教職員も学生も、それぞれが力の限りを尽くした。

学生ボランティア・研修医・看護学部からのメッセージ	指導医 医療人育成・支援センター 臨床医学教育研修部門 副部門長 准教授 大谷 晃司	76
私たちからのメッセージ「災害医療の現場でがんばっています！」		83
	循環器・血液内科学講座 助教 坂本 信雄	84
	臓器再生外科学講座 講師 土屋 貴男	84
	器官制御外科学講座・医療工学講座 准教授 福島 俊彦	84
	心臓血管外科学講座 講師 高瀬 信弥	85
	小児科学講座 大学院生 阿部 優作	85
	地域・家庭医療学講座 助手 高澤奈緒美	85
	療養支援看護学部 講師 飯塚 麻紀	86
	地域・在宅看護学部 助教 福島 直美	86
国際医療支援		
ヨルダン王国医師団 タイ王国医療チーム		87
そして研修は続いてゆく 福島医大のポスト3.11		90
大震災を経験して	福島県立医科大学 耳鼻咽喉科 多田 靖宏	93
智拳印	医科大学医師会 器官制御外科学講座 福島 俊彦	95
原発は不安でしたが、病院に残りました	(福島県出身) 福島県立医科大学 研修医2年目 五十嵐 亮	
福島県立医大の研修医が体験した大震災	(福島県出身) 福島県立医科大学 研修医2年目 菅野 優紀	
	(秋田県出身) 福島県立医科大学 研修医2年目 大久保 怜子	96
福島から避難しても、何かせすにはいらませんでした	(神奈川県出身) 福島県立医科大学 6年生 垣野内 景	
福島県立医大の医学生が体験した大震災	(岩手県出身) 福島県立医科大学 6年生 宮澤 晴奈	
	(福島県出身) 福島県立医科大学 6年生 高木 玄教	
	(千葉県出身) 福島県立医科大学 2年生 高岡 沙知	99
家庭医が綴る福島からのメッセージ	福島県立医科大学 医学部 地域・家庭医療学講座 助教 石井 敦	103
緊急即応体制に有用なメーリングリスト	福島県立医科大学 准教授 石龍 鉄樹	109
地震・津波・原発事故への対応	副院長兼看護部長 中嶋由美子	111
福島県立医科大学附属病院の活動記録	看護部副部長(元・外来看護師長) 目黒 文子	113
	手術部 横山美穂子	114
	4階西病棟 渡邊佳代子	116
	心身医療科病棟看護師長 齋藤 美代	117
	がん放射線療法看護認定看護師 上澤 紀子	118
	外来看護師長 大槻美智子	118
	がん看護専門看護師 保坂 ルミ	120
	看護部管理室 菅沼 靖子	121
	救命救急センター 佐藤めぐみ	123
福島県立医科大学看護学部教員の支援活動	療養支援看護学部 講師、附属病院看護部・臨床腫瘍センター 兼務/がん看護専門看護師 三浦 浅子	125
	家族看護学部 助教 鈴木 学爾	126
	療養支援看護学部 准教授 小平 廣子	128
	地域・在宅看護学部 講師 稲毛 映子	129

福島県立医科大学看護学部：学生ボランティアを体験して	3年生 守家 詩織	132
	3年生 阿部 仁美	133
	2年生 松本 里帆	135
東日本大震災・原発事故における看護部の対応と学び	福島県立医科大学附属病院 副院長兼看護部長 中嶋由美子	137
福島医大の震災レポート	福島県立医科大学附属学術情報センター 秋葉さおり	138
ようこそ家庭医療へ！ ～いわきに生きる家庭医療への挑戦～	福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 助教 石井 敦	141
理事長室からの花だより	福島県立医科大学 理事長 菊地 臣一	146

第3章 放射能との闘い
 —リスクコミュニケーションの専門家から、放射能も怖い、もっと怖いのは無知、無関心と偏見であり、そして、科学の力で風評被害と闘うことの大切さを提示された。すなわち、医療人が社会に貢献するための基本姿勢、客観的データで、正しく解決するという姿勢である。

福島県立医科大学新入学生と保護者の皆さまへ		
福島県立医科大学在学学生と保護者の皆様へ		
福島県立医科大学新臨床研修医・専攻医と保護者の皆様へ	福島県立医科大学 学長 菊地 臣一	164
福島県立医科大学構内環境放射線測定結果と屋外活動について		167
放射線Q&A	福島県放射線健康リスク管理アドバイザー 山下 俊一	169
総合科学系・生命科学社会医学系教職員による放射線モニタリング活動の記録	福島県立医科大学 神経解剖・発生学講座 八木沼洋行	172
福島医大における自然放射線の東北地方太平洋沖地震後の推移	福島県立医科大学 医学部自然科学講座(物理学) 教授 小林 恒夫	174
原発事故後の福島県内における甲状腺スクリーニングについて	福島県立医科大学 器官制御外科学講座 乳腺・内分泌・甲状腺外科部長 教授 鈴木 眞一	176
福島医大構内測定	福島県立医科大学 医学部 放射線測定チーム 本間 好	
	福島県立医科大学 医学部 放射線測定チーム 遠藤 雄一	
	福島県立医科大学 医学部 放射線測定チーム 鈴木 俊幸	
	福島県立医科大学 医学部 放射線測定チーム 小林 恒夫	178
原子力災害時の対応 —人工呼吸を継続するために—	福島県立医科大学 麻酔科学講座 飯田 裕司	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 根本 千秋	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 大橋 智	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 最上 翠	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 大石理恵子	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 五十洲 剛	
	福島県立医科大学 麻酔科学講座 村川 雅洋	186
	福島県立医科大学 理事長兼学長 菊地 臣一	187
新たな副学長の就任について		
安心して住める福島を取り戻す		
日本内分泌外科学会の緊急企画で鈴木眞一・福島県立医大教授が報告		188
東日本大震災：放射能汚染と避難命令への対応	福島県立医科大学 理事/呼吸器内科学講座教授 棟方 充	190
被曝医療体制、リスク情報発信のあり方で専門家らが議論		194
震災教訓に、福島を災害医療・被ばく医療の拠点へ		196
放射線リスクの考え方 —科学と哲学の狭間で—	福島県立医科大学 被ばく医療班 長谷川有史	197
フクシマの教訓 —放射能被ばく事故に学ぶところのケア	丹羽 真一	199
東日本大震災・福島原発事故の中での医療活動		
—対応と今後の課題—	福島県立医科大学 医学部 整形外科講座 教授 紺野 慎一	203
緊急被ばく医療体制と東電原発事故災害への対応および今後の課題	福島県立医科大学 医学部 放射線科 緊急被ばく医療班 穴戸 文男	
	福島県立医科大学 医学部 救急科 緊急被ばく医療班 田勢長一郎	
	福島県立医科大学 医学部 放射線科 緊急被ばく医療班 佐藤 久志	
	福島県立医科大学 医学部 放射線科 緊急被ばく医療班 宮崎 真	
	福島県立医科大学 医学部 救急科 緊急被ばく医療班 長谷川有史	204
災害現場を支える医療の現状 —抱えた責務と抱えるべき責務—	福島県立医科大学 被ばく医療班 長谷川有史	208
食品と体内の放射能測定とは？ —「正しい計測」とその先にあるもの—	福島県立医科大学 被ばく医療班 宮崎 真	210

東日本大震災における放射線汚染と避難命令への対応	福島県立医科大学 理事(呼吸器内科学講座)	棟方 充	212
福島医大被曝医療班の活動 —communicationとeducation—	福島県立医科大学附属病院 被曝医療班	長谷川有史	218
放射線被曝			
急性障害は見られず2次被曝の過剰な心配も			225
将来の緊急被ばく医療の課題	(座長)フジ虎ノ門整形外科病院	前川 和彦	
	(座長)国際医療福祉大学クリニック	鈴木 元	
	(パネリスト)国立保健医療科学院	金谷 泰宏	
	(パネリスト)独立行政法人放射線医学総合研究所	富永 隆子	
	(パネリスト)独立行政法人放射線医学総合研究所	鈴木 敏和	
	(パネリスト)国立保健医療科学院	櫻田 尚樹	
	(パネリスト)独立行政法人日本原子力研究開発機構	百瀬 琢麿	
	(パネリスト)三菱重工株式会社神戸造船所	衣笠 達也	
	(パネリスト)福島県立医科大学	長谷川有史	
	(パネリスト)埼玉県立がんセンター	諸澄 邦彦	227
福島医大被ばく医療班の取り組み	福島県立医科大学附属病院 救命救急センター被ばく医療班	長谷川有史	236
東日本大震災と引き続き放射線被ばく問題について	福島県立医科大学 医学部 整形外科 医療人育成・支援センター	大谷 晃司	
	福島県立医科大学 医学部 整形外科	紺野 慎一	
	福島県立医科大学 医学部 整形外科	穴戸 裕章	246
福島県立医科大学における緊急被ばく医療	福島県立医科大学	穴戸 文男	
	福島県立医科大学	田勢長一郎	
	福島県立医科大学	佐藤 久志	
	福島県立医科大学	宮崎 真	
	福島県立医科大学	長谷川有史	
	福島県立医科大学	大津留 晶	253
福島原発事故における福島医大病院緊急被ばく医療班の対応	福島県立医科大学附属病院救急科助教	長谷川有史	257
甲状腺検査における検査結果と今後の課題や方向性について	福島県立医科大学 器官制御外科学講座 福島県災害医療調整医監 放射線医学県民健康管理センター、臨床部門 (甲状腺検査担当)	鈴木 眞一	263
プロメテウスの罠：見ないと分からない			268
地元医大の使命			269

特別インタビュー
—「福島の悲劇を奇跡に」の理念の下、「すべての記録を正確に後世に伝える」ことの必要性を強調。さらに多様な具体例を示しながら50年後、100年後の福島県民の健康を守っていく闘いを「福島独自の力」で勝ち抜き決意を語る。

悲劇から奇跡へ	福島県立医科大学 理事長兼学長	菊地 臣一	274
---------	-----------------	-------	-----

第4章 患者救済に奔走した活動記録(論文・研究発表)			
—患者救済に奔走した災害時医療の全てを記録し、次の世代に伝えていく責務。原発事故に対して国民や県民の健康を守り、本学が得た知見を世界に発信していくという新たな歴史的使命が生まれた。			
東日本大震災：被災地の現場から	福島県立医科大学 福島医大	学長・菊地臣一氏に聞く	284
東日本大震災から4か月	福島県立医科大学	理事長兼学長 整形外科	菊地 臣一 290
原発災害に立ち向かう(上)			
トップのリーダーシップを問う	福島県立医科大学	理事長・学長	菊地 臣一 292
原発災害に立ち向かう(下)			
リスク・コミュニケーションの重要性	福島県立医科大学	理事長・学長	菊地 臣一 296
東日本大震災から1年：被災地の今	菊地臣一・福島県立医科大学学長に聞く		300
東日本大震災を考える	福島県の医科系大学のトップとして	福島県立医科大学 理事長兼学長 整形外科	菊地 臣一 306
福島医大 高度医療緊急支援に係る実績について	平成23年3月28日～4月28日	企画財務課	314
		心のケアチーム	矢部 博興 315
		看護学部	結城美智子 318
危機対応の要諦：備えとリーダーシップ	福島県立医科大学	理事長兼学長	菊地 臣一
	京都大学大学院医学研究科医療疫学分野教授 米国内科専門医(FACP)	福原 俊一	320

福島県の被災状況と検案医体制の推移に関する調査	研究分担者	福島県立医科大学 法医学講座教授	平岩 幸一	325
被災地からの報告 原発事故が地域にもたらしたもの～福島の大震災の特異性～	福島県立医科大学 医療人育成・支援センター 福島県立医科大学附属病院 循環器内科		石川 和信	337
福島県立医科大学における東日本大震災後の活動	福島県立医科大学 医学部 神経内科学講座		杉浦 嘉泰	
神経内科医の立場から	福島県立医科大学 医学部 神経内科学講座		宇川 義一	341
東日本大震災特別鼎談「震災と喘息」	司会：福島県立医科大学 医学部 呼吸器内科学講座教授		棟方 充	
	コメンテーター：岩手医科大学医学部内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科学分科教授		山内 広平	
	コメンテーター：宮城県立こども病院総合診療科部長		三浦 克志	344
東日本大震災特別報告(福島発)一悲劇から奇跡へ①	福島県立医科大学副理事長・器官制御外科学教授		竹之下誠一	
福島県立医科大学の役割と医療対応	福島県立医科大学 救急医療学講座被ばく医療班		長谷川有史	348
東日本大震災特別報告(福島発)一悲劇から奇跡へ②	福島県立医科大学 器官制御外科学主任教授		竹之下誠一	
災害医療における情報伝達のあり方	同教室		藤田正太郎	
	同教室		小船戸康英	
	同教室		福島 俊彦	352
東日本大震災と福島第一原発事故に対する福島県立医大の活動状況について	福島県立医科大学 医学部 整形外科講座教授		紺野 慎一	356
近況報告	福島県立医科大学 医学部 整形外科		紺野 慎一	357
被災地における大学病院の役割	福島県立医科大学 整形		紺野 慎一	
	福島県立医科大学 整形		菊地 臣一	358
東日本大震災にて受傷した小児の上下肢のコンパートメント症候群 —1例報告—	福島県立医科大学 整形外科		小平 俊介	
	福島県立医科大学 整形外科		川上 亮一	
	福島県立医科大学 整形外科		江尻 莊一	
	福島県立医科大学 整形外科		紺野 慎一	359
震災直後の地域リハビリテーション	福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター 福島県立医科大学 医学部 整形外科		矢吹 省司	
	福島県立医科大学附属病院リハビリテーションセンター 福島県立医科大学 医学部 整形外科		大内 一夫	360
地震、津波、原発 そして今～複合災害からの教訓～	福島県立医科大学 眼科学講座 准教授		石龍 鉄樹	361
福島医大県内避難所支援について	福島県立医科大学 耳鼻咽喉科		松塚 崇	368
巻頭言	日本耳鼻咽喉科学会福島県地方会長		大森 孝一	371
3.11共有すべき記憶～復旧から復興へ～				
日本頭頸部外科学会の福島開催を東北復興への大きな第一歩にごあいさつ	福島県立医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座教授		大森 孝一	372
	第22回日本頭頸部外科学会会長 福島県立医科大学 医学部耳鼻咽喉科学講座		大森 孝一	376
地震・津波・原発事故における災害医療	福島県立医科大学附属病院副院長 福島県立医科大学耳鼻咽喉科		大森 孝一	377
地震・津波・原発事故災害への対応	福島県立医科大学 耳鼻咽喉科学講座		大森 孝一	378
フクシマの教訓—放射能被ばく事故に学ぶこころのケア	福島県立医科大学 神経精神医学講座		和田 明	
原子力発電所事故後の福島県における精神科新入院の状況	福島県立医科大学 神経精神医学講座		國井 泰人	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		松本 純弥	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		板垣俊太郎	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		三浦 至	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		増子 博文	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		矢部 博興	
	福島県立医科大学 神経精神医学講座		丹羽 真一	380
東日本大震災・福島第一原発事故と福島県立医科大学	福島県立医科大学附属病院 病院長		村川 雅洋	385
後方支援病院の経験から	福島県立医科大学附属病院病院長、同麻酔科学		村川 雅洋	386
麻酔科医が広域災害に果たす役割 大学病院の立場から	福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座		村川 雅洋	
	福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座		五十洲 剛	
	福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座		飯田 裕司	
	福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座		根本 千秋	391
麻酔科とチーム医療	福島県立医科大学附属病院 麻酔・疼痛緩和科		五十洲 剛	
手術室緊急事態発生時の対応：東日本大震災の経験—手術室マネージメント—	福島県立医科大学附属病院 麻酔・疼痛緩和科		村川 雅洋	397

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故が ペインクリニックの患者に与えた影響	福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座 福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座 福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座 福島県立医科大学 医学部 麻酔科学講座	中川 雅之 佐藤 薫 五十洲 剛 村川 雅洋	403
福島県における東日本大震災 (the 2011 off the Pacific coast of Tohoku Earthquake) 時の手術室の状況とその後に行った アンケート結果について	福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科	最上 翠 前田 友美 今泉 剛 中川 雅之 五十洲 剛 村川 雅洋	408
当院で行った放射線汚染傷病者に対する緊急手術の シミュレーション	福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科 福島県立医科大学附属病院麻酔科	大橋 智 武藤茉莉子 堀 学爾 佐藤 薫 飯田 裕司 村川 雅洋	409
世界標準の家庭医療を福島で実践 大災害からの復興支援に奮闘中	福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 主任教授	葛西 龍樹	410
東日本太平洋沖地震発生後の空調停止による 飼育室内環境の変化	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 整形外科学講座	片平 清昭 若井 淳 遊佐 寿恵 関口 美穂	412
原発事故後における実験動物施設内放射線量の測定	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	若井 淳 片平 清昭	413
東日本大震災に学ぶ ―災害時の動物飲用水の確保―	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 株式会社ジェー・エー・シー 株式会社ジェー・エー・シー 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	遊佐 寿恵 丹治 静保 長谷川久美子 塩谷 朋子 片平 清昭	414
東日本大震災に学ぶ ―オートクレープ使用不能の際のケージの消毒―	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	丹治 静保 遊佐 寿恵 片平 清昭	415
福島医大実験動物研究施設における被災状況と現場対応	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	遊佐 寿恵	416
震災と原発事故から学ぶ防災対策	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	片平 清昭	417
地震前後におけるマウスの体温と自発活動量の観察	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 整形外科学講座	片平 清昭 若井 淳 関口 美穂	420
スタッフの連携で乗り越えた地震・放射能汚染の二重被害	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設長	片平 清昭	422
原発事故後における実験動物施設内放射線量の測定	福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設 福島県立医科大学 医学部 附属実験動物研究施設	若井 淳 片平 清昭	431
福島第一原発に最も近い大学病院 被ばく医療の拠点として奮闘	福島県立医科大学附属病院 副病院長兼看護部長 がん放射線療法看護認定看護師 長崎大学病院放射線部看護師、長崎大学大学院医薬 学総合研究科保健学専攻放射線専門看護師養成コース 2年(修士)	中嶋由美子 上澤 紀子 橋口香菜美	433
被災地の大学病院からの報告	福島県立医科大学附属病院 助産師長	津田 裕子	435
東日本大震災における対応	福島県立医科大学附属病院手術部 主任看護技師	貝沼 純	443
震災と原発事故を体験して…	福島県立医科大学附属病院集中治療室 主任看護技師	三瓶 智美	451
東日本大震災の経験と防災対策について	福島県立医科大学附属病院 集中治療部 看護師長	高橋 美幸	455
新生児とその家族を守るために必要な災害時看護	福島県立医科大学附属病院 総合周産期母子医療センター新生児部門 主任看護技師	小野 陽子	458
福島原子力発電所事故における 福島県ドクターヘリ飛行とフライトナースの活動	福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター	武藤 博子 島田真由美 斎藤 由実	

東日本大震災直後の福島県ドクターヘリの活動	福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院	島田真由美 小賀坂奈美 武藤 博子 斎藤 由実 佐藤めぐみ 渡部智恵子	463
DMAT参集拠点病院における複数ドクターヘリ 受け入れ経験	福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院	小賀坂奈美 島田真由美 斎藤 由実 武藤 博子 西東 智恵 武田 嘉子 佐藤めぐみ 宮崎 博之 小賀坂奈美 島田真由美 斎藤 由実 武藤 博子 西東 智恵 武田 嘉子 佐藤めぐみ 宮崎 博之	465
原発事故発生後の福島医大における患者搬送の実際	福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院	小賀坂奈美 塚田 泰彦 渡部智恵子	468
東日本大震災における基幹災害拠点病院DMATとしての 活動	福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院 福島県立医科大学附属病院	小賀坂奈美 佐藤めぐみ 宮崎 博之 塚田 泰彦 田勢長一郎 渡部智恵子 島田 二郎	470
DMAT調整本部におけるチームとしての活動の重要性 特にロジスティックの重要性	福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター	佐藤めぐみ 渡部智恵子 小賀坂奈美 宮崎 博之 島田 二郎 田勢長一郎	472
震災と原発事故を経験して これからのフクシマの循環器看護を考える	福島県立医科大学附属病院 救命救急センター	齋藤 紀子	475
東日本大震災時の輸血 ～福島県災害拠点病院における対応～	福島県立医科大学附属病院 輸血・移植免疫部 福島県立医科大学附属病院 輸血・移植免疫部 福島県立医科大学附属病院 救命救急センター 太田西ノ内病院 臨床検査科 白河厚生総合病院 検査科 磐城共立病院 中央検査部 福島赤十字病院 検査部 会津中央病院 臨床検査科 南相馬市立病院 臨床検査科 福島県立南会津病院 薬剤部 福島県立医科大学附属病院 輸血・移植免疫部	安田 広康 渋谷 理絵 塚田 泰彦 渡辺 隆幸 菊池 良子 鈴木久仁子 菅野 和典 大戸 高広 嶋田 里子 市橋 淳 大戸 斉	479
震災後のがん医療の現状 看護師の立場から ～通院治療の支援	福島県立医科大学附属病院 外来化学療法センター、がん化学療法認定看護師	氏家由起子	483
東日本大震災を経験して ～災害時の状況と対策について～	福島県立医科大学附属病院 栄養管理部 専門栄養技師(兼)係長	真田久美子	487
FUKUSHIMA SYMPOSIUM：A BRIEF NOTE	Dean, Graduate School of Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan Dean, School of Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine, Fukushima, Japan, Vice-president, The Fukushima Society of Medical Science	IKUO WADA HITOSHI OHTO	493

RADIATION MEASUREMENTS AT THE CAMPUS OF FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY	Department of Natural Sciences (Physics), School of Medicine, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan	TSUNEO KOBAYASHI 495
LESSONS FROM CHERNOBYL	Nagasaki University Graduate School of Biomedical Science, Nagasaki, Japan Vice President, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan	NOBORU TAKAMURA SHUNICHIYAMASHITA 500
AN AMERICAN HIBAKUSHA IN FUKUSHIMA	Department of Blood Transfusion and Transplantation Immunology, Fukushima Medical University, Fukushima, Japan	KENNETH E. NOLLET 505
Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident and Emergency Medical Response at Fukushima Medical University Hospital	Department of Emergency and Critical Care Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine Department of Emergency and Critical Care Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine Department of Emergency and Critical Care Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine Takashi Nagai Memorial International Hibakusha Medical Center, Nagasaki University Hospital Takashi Nagai Memorial International Hibakusha Medical Center, Nagasaki University Hospital	Arifumi Hasegawa Makoto Miyazaki Choichiro Tase Atsushi Kumagai Akira Ohturu 510
The first seven days of the disaster	Professor and Chair Department of Community and Family Medicine Fukushima Medical University	Ryuki KASSAI 514
The second seven days of the disaster	Professor and Chair Department of Community and Family Medicine Fukushima Medical University	Ryuki KASSAI 516
Fukushima one month on	Professor and Chair Department of Community and Family Medicine Fukushima Medical University	Ryuki KASSAI 518
Beyond the day after tomorrow : community health in Japan	Professor and Chair Department of Community and Family Medicine Fukushima Medical University	Ryuki KASSAI 520
The first anniversary of the Japanese tsunami	Professor and Chair Department of Community and Family Medicine Fukushima Medical University	Ryuki KASSAI 522
Disaster in Japan : a new medical gaze	Clinical Associate, Salaried GP and Deputy Editor InnovAiT Professor and Chair of Department of Community and Family Medicine, Fukushima Medical University	Patrick Hutt Ryuki KASSAI 524

第5章 次世代へ伝える

—今求められているのは、未曾有の複合災害に直面して自ら得た知見や復興への展望、もの言えぬ立場の人々の様々な声、それらを次世代への大切な教訓として伝えていくことだ。

訓示 東北地方太平洋沖地震の発生にあたって	福島県立医科大学 学長	菊地 臣一 528
東日本大震災を考える	福島県立医科大学 理事長兼学長	菊地 臣一 530
福島の悲劇を福島の奇跡へ 福島県立医大の歴史的使命	福島県立医科大学 副理事長兼器官制御外科学講座主任教授	竹之下誠一 531
福島県立医科大学：東日本大震災・原発事故のリスクマネジメント、そして復興への展望	福島県立医科大学心臓血管外科学講座教授 附属病院副院長 復興本部会議委員	横山 斉 534
福島県の医療再生：私はこう考える プライマリ・ケア専門チームの育成を	福島県立医科大学 地域・家庭医療学講座 主任教授	葛西 龍樹 539
情報化社会のリスクコミュニケーション	福島県立医科大学 被ばく医療班	佐藤 久志 540
県民健康管理調査事業 復興と再生の一助となるために	福島県立医科大学 副学長	山下 俊一 542
シンポジウム 大災害と整形外科医 緒言	福島県立医科大学 理事長兼学長 整形外科	菊地 臣一 546
県民健康管理調査		健康調査課 547
健康管理を進める拠点をつくりトップクラスの医療を提供する	福島県立医科大学 理事長兼学長	菊地 臣一 556
福島で幸福に生きる	福島県立医科大学 医学部 救急医療学講座 被ばく医療班	長谷川有史 558
東日本大震災特別報告(福島発)―悲劇から奇跡へ③ 東日本大震災後の歩みと未来への取り組み	福島県立医科大学 副理事長・器官制御外科学講座主任教授	竹之下誠一
	同器官制御外科学講座	中村 泉 561
小児甲状腺検査の実情 子供たちの未来を守るために	福島県立医科大学 器官制御外科	鈴木 眞一 566
医療・介護のベクトルを県民の生活基盤へ 県民健康管理センターは人類共有の財産になる	福島県立医科大学 理事長兼学長	菊地 臣一 570
福島の悲劇を奇跡に 歴史的使命と世界的責任を担いつつ	福島県立医科大学 理事長兼学長 福島県立医科大学 副学長 福島県立医科大学 副学長	菊地 臣一 山下 俊一 神谷 研二 573

学長からの手紙

福島県立医科大学 理事長兼学長 菊地 臣一 578

付録

平成23年東北地方太平洋沖地震による被害状況即報(第765報)	586
大震災ドキュメント 2011年3月11日～2012年3月31日	587
東日本大震災により被害を受けた本県の復興に向けた本学への支援者等	597
著者等別索引	599
キャンパスマップ	600

■教職員の被災状況について	総務課	86
■物資の他大学からの支援状況について	企画財務課	94
■福島県立医科大学による災害後広域医療支援について	企画財務課	177
■広島大学・長崎大学との連携協定調印及び 福島原子力災害医療対策キックオフミーティング・放射線影響研究機関協議会について	企画財務課	267
■広島大学による支援活動の概況	企画財務課	273
■長崎大学による支援活動の概況	企画財務課	282
■避難指示地域等にある病院の入院患者の受入、移送等について	病院経営課	313
■震災後の診療体制及び実績について	病院経営課	494
■施設等の被災状況について	総務課	545
■東日本大震災当日の患者及び病院施設の被災状況について	病院経営課	555
■学生の被災状況等について	学生課	584

◆動画資料

◆パワーポイント資料

この活動記録集は、福島県立医科大学の活動記録を後世に伝えるために、大災害から1年後、学内から論文や資料・写真を集めて編纂したものである。執筆者の肩書きは、執筆当時のものである。

デジタル版掲載動画資料

福島県放射線健康リスクアドバイザーによる講演会		
日時：平成23年3月21日(月) 14：00～15：00		
場所：福島テルサ		
【演題】		
福島県原発事故の放射線健康リスクについて	▶動画を見る46m49s	
質疑応答	▶動画を見る6m2s	
放射線に関する講演会		
01—放射線測定の解釈と判断	▶動画を見る1h20m5s	
日時：平成23年4月22日(金) 16：00～17：00		
場所：8号館(旧看護学部棟)N301教室		
講師：松田尚樹教授(長崎大学先端生命科学研究所支援センター)		
02—放射線といのち	▶動画を見る1h22m7s	
日時：平成23年5月6日(金) 14：40～16：10		
場所：講堂		
講師：山下俊一教授(長崎大学大学院)		
チェルノブイリの教訓から福島原発事故を考える		
03—第1回目講演及び質疑応答	▶動画を見る1h12m51s	
04—第2回目質疑応答のみ	▶動画を見る9m7s	
日時：平成23年5月13日(金) 16：00～		
場所：講堂		
講師：山下俊一教授(長崎大学大学院)		
05—放射線の人体影響の概要	▶動画を見る50m57s	
日時：平成23年6月24日(金) 14：30～		
場所：11号館(旧臨床講義棟)第二臨床講義室		
講師：神谷研二教授(広島大学原爆放射線医科学研究所所長)		
県民健康管理調査の英語版概要ビデオ	▶動画を見る10m36s	平成24年3月13日 ホームページ掲載
きぼうときずなプロジェクト	▶動画を見る11m1s	

デジタル版掲載パワーポイント資料

丹羽 真一		
2011.5.21	被災地からの経緯と課題についての報告(福島県)	日本精神神経学会
2011.5.21	東日本大震災後のこころのケア —大震災と原発事故のもとでの経験—	日本生物学的精神医学会
2011.5.21	被災地からの経緯と課題についての報告(福島県) 丹羽・畑	日本精神神経学会
2011.6.8	東日本大震災 —福島からの報告—	民主党・精神保健医療改革プロジェクトチーム
2011.6.10	被災地 —福島から	日本心身医学会 震災支援パネルディスカッション
2011.8.5	福島県の大震災被害者の状況と必要な精神科医療支援	第17回STT経験交流会ワークショップinあいち
2011.8.16	震災・原発事故と精神科医療の復興	県南地区医療懇話会白河完成版
2011.8.25	福島県の中・長期の心の支援計画について	講座担当者会議
2011.8.27	東日本大震災・原発事故とこどものこころのケア	近畿児童精神医学研究会
2011.8.27	災害と心のケア —大震災と原発事故の対応から—	帝京平成大学 シンポジウム
2011.9.17	被災地における心のケア —フクシマの経験から—	日本医学会
2011.10.1	心のケア・精神科からの取り組み シンポジウム用	第34回総合リハビリテーション研究会シンポジウム2
2011.10.1	心のケア・精神科からの取り組み 分科会用	第34回総合リハビリテーション研究会分科会5
2011.10.2	東日本大震災・原発事故と福島県の精神科医療	福島いのちの電話秋季公開講座スライド

2011.10.10	大震災と原発事故のストレスと心のケア —フクシマの経験から—	第10回日本トラウマチックストレス学会 ランチョンセミナー
2011.10.19	大震災・原発事故とこころのケア—フクシマの教訓—	慶応・精神神経科学教室研究会
2011.10.22	東日本大震災と原発事故のあとの心のケア	第16回静岡健康長寿学術フォーラム
2011.10.26	福島県の被災・支援状況と今後の復興ビジョン	第107回日本精神神経学会学術総会シンポジウム
2011.11.8	Mental Health Issues Following the Complex Disasters of the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Nuclear Power Plant Accident	UOEH国際シンポジウム 産業医大
2011.11.18	大震災と原発事故とこころのケア —これからの課題—	精神科医療と東日本大震災・原発事故シンポジウム
2011.12.8	精神科医療・心のケアとしての取り組み	内閣府障害者週間連続セミナー
2011.12.8	Mental Health Issues Following the Complex Disasters of the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Nuclear Power Plant Accident	内閣府経済社会総合研究所研究会
2011.12.11	心のキュア・ケアの現状	日本医療学会基調講演

救急医療学講座 助教 長谷川有史

2011.7.16	救急医からみた原子力災害医療	東日本大震災復興支援第3回シンポジウム
2011.8.27	東京電力福島第一原発事故時の緊急被ばく医療 —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	第15回放射線事故研究会
2011.9.4	東京電力福島第一原発事故時の緊急被ばく医療 —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	福島市民向け救急シンポジウム
2011.11.12	原子力災害におけるドクターヘリ運航 —放射線防護の観点から—	第18回日本航空医療学会総会
2011.11.18	東京電力福島第一原発事故時の緊急被ばく医療 —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	日本蘇生学会第30回大会 シンポジウム
2012.1.16	放射線の健康影響 —基本調査からわかること—	浪江町安達避難所説明会
2012.1.19	原子力災害に伴う放射線影響 —妊婦・乳幼児・学童等への積算線量測定結果の解釈について—	南会津 南会津職員研修会
2012.1.19	原子力災害に伴う放射線被ばくの影響 —妊婦・乳幼児・学童等への積算線量測定結果の解釈について—	田島町職員研修会
2012.2.4	原発事故と被ばく医療の前線で —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	地域医療福祉情報連携協議会 第3回シンポジウム
2012.2.8	原発事故と被ばく医療の前線で —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	青森県 平成23年度第2回青森県緊急被ばく医療対策懇話会
2012.2.10	救急活動における放射能・放射線対策	平成23年度救急技術研究会
2012.2.18	リスクコミュニケーションから導き出す幸せ	福島ふっこうシンポジウム
2012.2.24	原発事故と被ばく医療の前線で —福島医大病院被ばく医療班の取り組み—	石川県 石川県ネットワーク調査検討会
2012.3.3	原発事故と被ばく医療の前線で —福島医大病院被ばく医療班の取り組みと今後の課題—	金沢医師会 病診連携の集い
2012.3.18	原発事故における対応と課題および今後の展望 —被ばく医療—	シンポジウム 東日本大震災の医療 検証および将来への展望
2012.3.21	原発事故と被ばく医療の前線で —福島医大病院被ばく医療班の取り組みと今後の課題—	平成23年度第2回北海道地区「緊急被ばく医療ネットワーク協議会」
2012.5.26	放射線被ばく医療の実際 —災害から学ぶ実践的医療教育—	第44回 医学教育セミナーとワークショップ in 福島
2012.5.27	東日本大震災による原子力災害 —被ばく医療：福島・日本の医療が抱えた責務—	第60回日本輸血・細胞治療学会総会
2012.6.9	大災害に直面した医師の叫び —科学の限界—	第15回臨床パストラル教育研究センター全国大会

